

九頭竜川水系足羽川ダム 事業費等監理委員会資料

－足羽川ダム建設事業－

事業概要

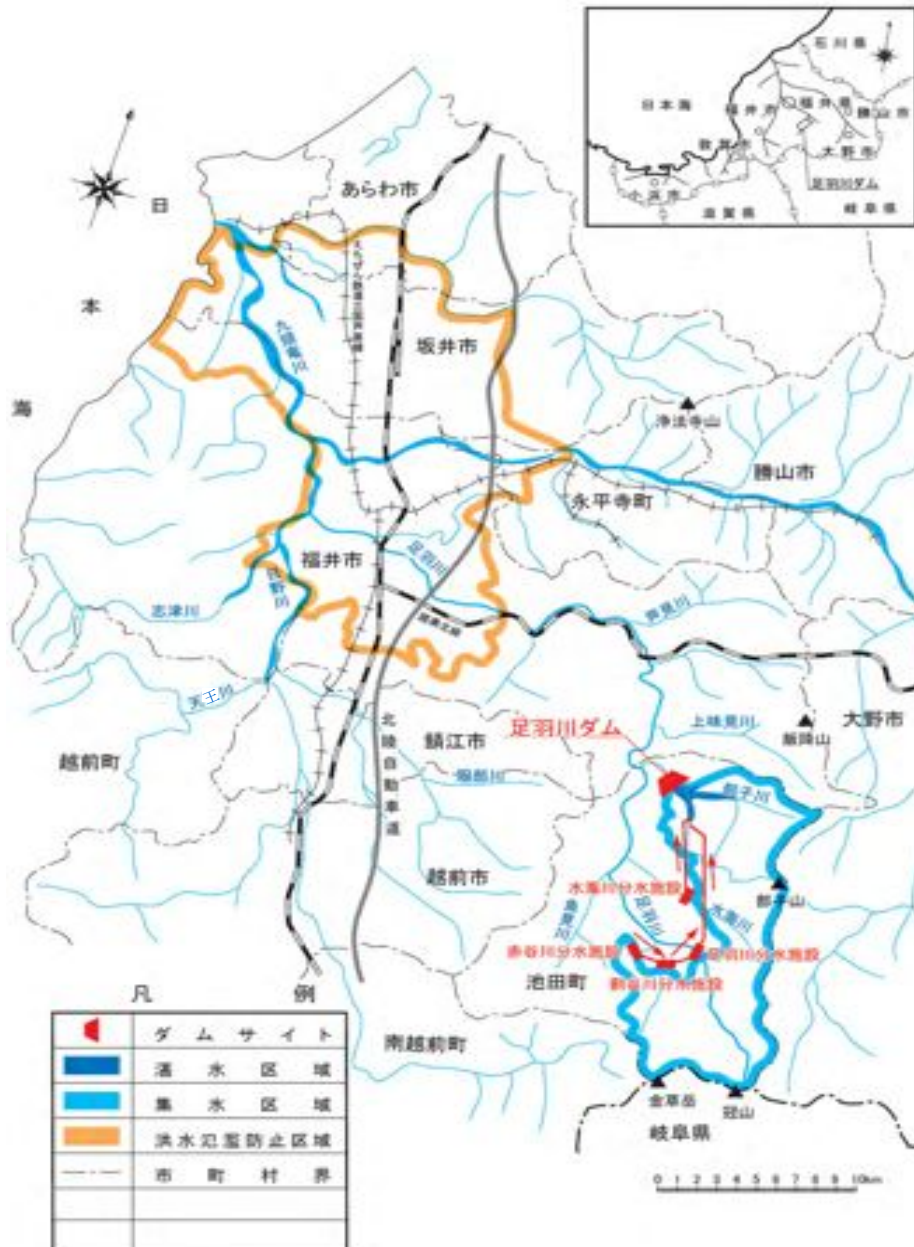
平成20年8月27日

足羽川ダム工事事務所

足羽川ダム建設事業位置図

足羽川流域の概要

- ・ 水源 : 冠山峠 (標高1,100m)
- ・ 流域面積 : 416km²
- ・ 幹川流路延長 : 61.7km
- ・ 直轄管理区間 : 8.6km
- ・ 年平均降水量 : 約2,200~2,500mm



足羽川流域の特徴

- ・人口と資産が集中している福井市中心市街地を流れている足羽川
- ・洪水時の水位は福井市街地より高い



いったん破堤すると
甚大な被害が生じる



図 1 3川に囲まれた地域に人口と資産が集中

過去の洪水と平成16年7月福井豪雨災害

戦後の洪水

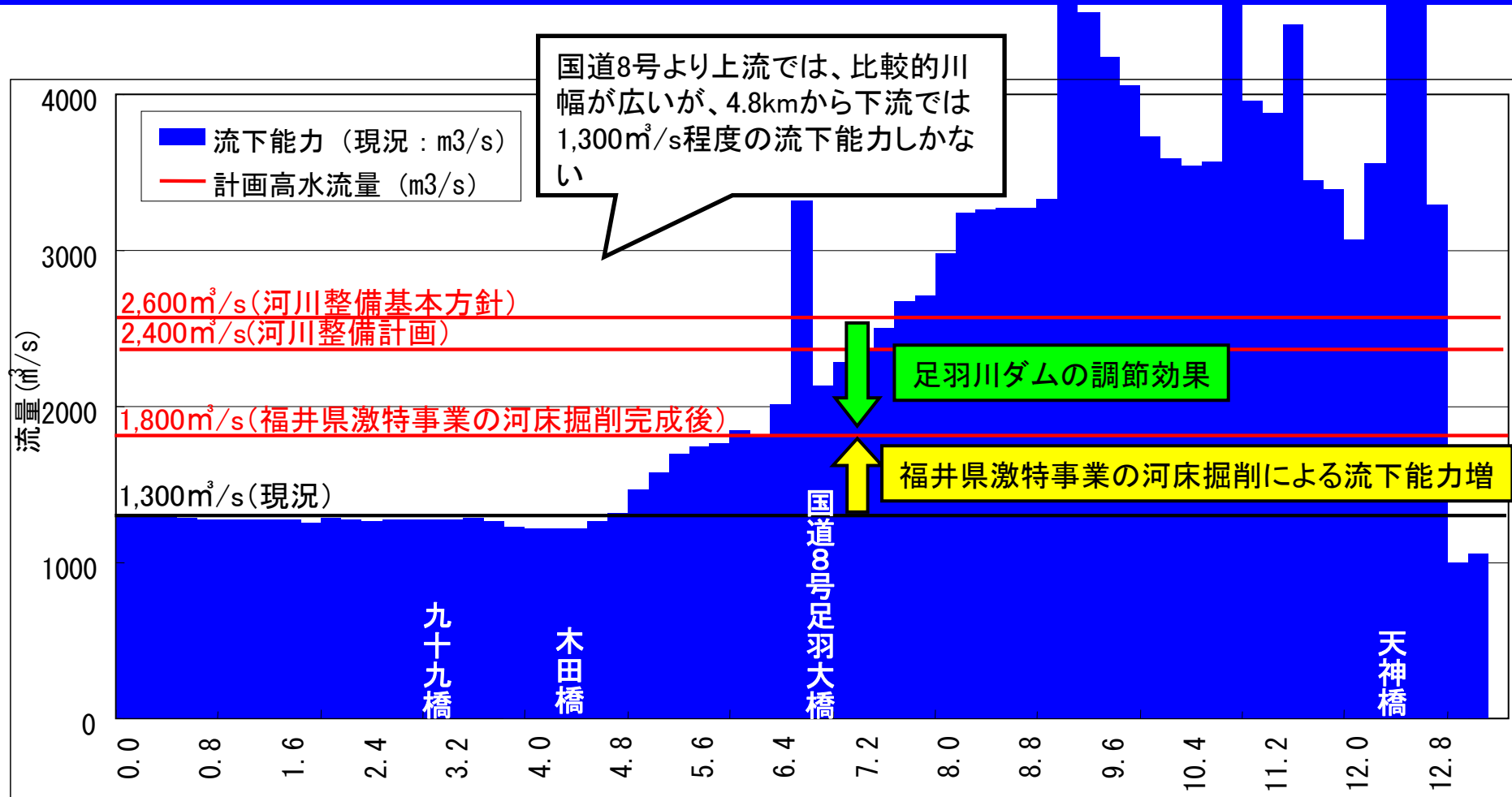
洪水年月	洪水名	記事
昭和23年7月(1948)	梅雨前線	福井震災によって、各河川の堤防が致命的な打撃を受けたところに、前線による大雨で九頭竜川本川および支川とも増水し、左岸燈明寺地先で破堤。福井市街地の北部一帯が浸水
昭和28年9月(1953)	台風13号	足羽川合流直後の日野川右岸三郎丸で破堤。足羽川右岸前波で堤防決壊し、大野-福井間の交通途絶
昭和34年8月(1959)	前線+台風7号	足羽川稲津で堤防が決壊し始めたが水防活動により防止。サーカス小屋が猛獣を入れたまま流失。桜橋流失
昭和36年9月(1961)	第2室戸台風	美山町で足羽川が氾濫し床上浸水が発生。越美北線が浸水し、レールが約100m流失
昭和39年7月(1964)	梅雨前線	足羽川増水により、毘沙門橋および天神橋が流失
昭和40年9月(1965)	奥越豪雨	奥越地方は壊滅的な被害。北陸線、越美北線不通。三国町では九頭竜川が逆流し浸水
昭和47年9月(1972)	台風20号	洪水位が足羽川鉄橋の橋桁近くまで迫る。美山町小宇坂島で足羽川が決壊寸前になり避難命令
昭和54年10月(1979)	台風16号	美山町蔵作で橋梁が流失。北陸線・越美北線不通
昭和56年7月(1981)	梅雨前線	越美北線は始発から不通。国道158号の福井-大野間も通行止め。小中学校の臨時休校多数
平成16年7月(2004)	福井豪雨	足羽川流域を中心に甚大な浸水被害が発生

過去の洪水

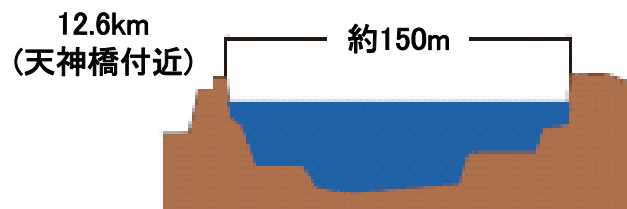
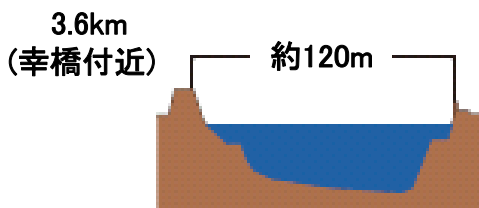
足羽川ダム建設事業の主要経緯

昭和42年	: 予備調査着手
昭和58年	: 実施計画調査着手
平成6年	: 建設事業移行
平成9年	: ダム建設事業審議委員会から答申 ➤ 足羽川ダムは治水・利水・環境の観点から必要 ➤ 現ダム計画(美山サイト)は大きな犠牲を伴い地元同意を得ることは困難な状況から、水没戸数が極力少なくなるよう事業者は最善の努力をすべき
平成11年	: 代替候補案の提示(部子川サイトのダム+4川導水)
平成14年	: 県、福井市は足羽川ダムの新規利水(上・工水)から撤退
平成14年5月	: 九頭竜川流域委員会設置
平成18年2月	: 九頭竜川水系河川整備基本方針策定
平成19年2月	: 九頭竜川水系河川整備計画策定
平成19年3月	: 環境アセスメントの手続きに着手
〃 3～10月	: 足羽川ダム建設事業に係る調査の実施に関する協定締結
平成19年7月	: 用地測量(一筆測量)に着手
平成19年12月	: 環境影響評価方法書の公告・縦覧
平成20年5月	: 福井県知事より方法書に関する環境の保全の見地からの意見提出

足羽川の現状と課題



〈参考〉福井豪雨前の足羽川の横断図



九頭竜川水系河川整備計画

平成9年 河川法改正



平成18年2月
九頭竜川水系河川整備基本方針策定



河川整備計画原案作成



住民説明会



計6回開催

地方公共団体の長

関係機関

九頭竜川流域委員会



計33回開催



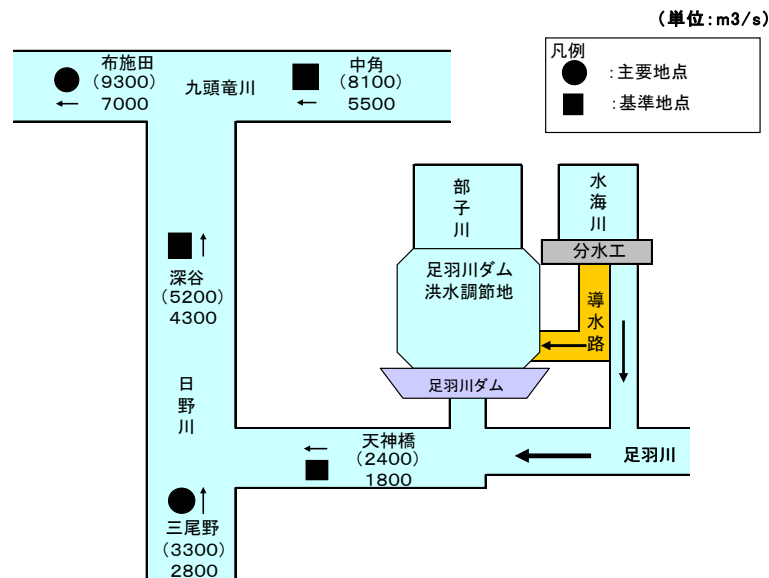
意見など

意見など

平成19年2月 九頭竜川水系河川整備計画策定

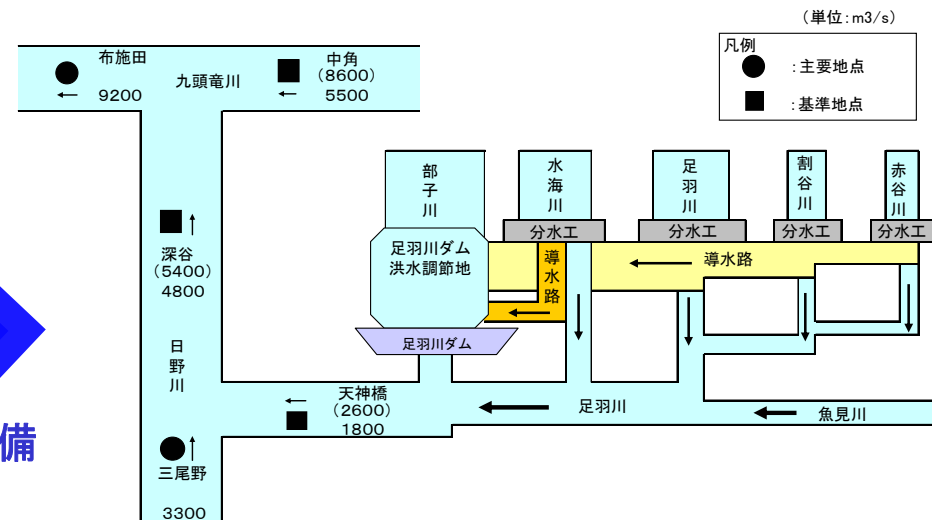
治水対策の目標

九頭竜川水系河川整備計画の目標流量
(戦後最大規模・福井豪雨)に対応



部子川流域と水海川流域の洪水を調節

九頭竜川水系河川整備基本方針の目標流量
150年に1回の洪水に対応



部子川流域と4流域(水海川、足羽川、割谷川、赤谷川流域)の洪水を調節



※上段カッコ内書: 目標流量(基本高水のピーク流量)、下段: 計画高水流量

足羽川ダム建設事業計画平面図



足羽川ダム建設事業の概要

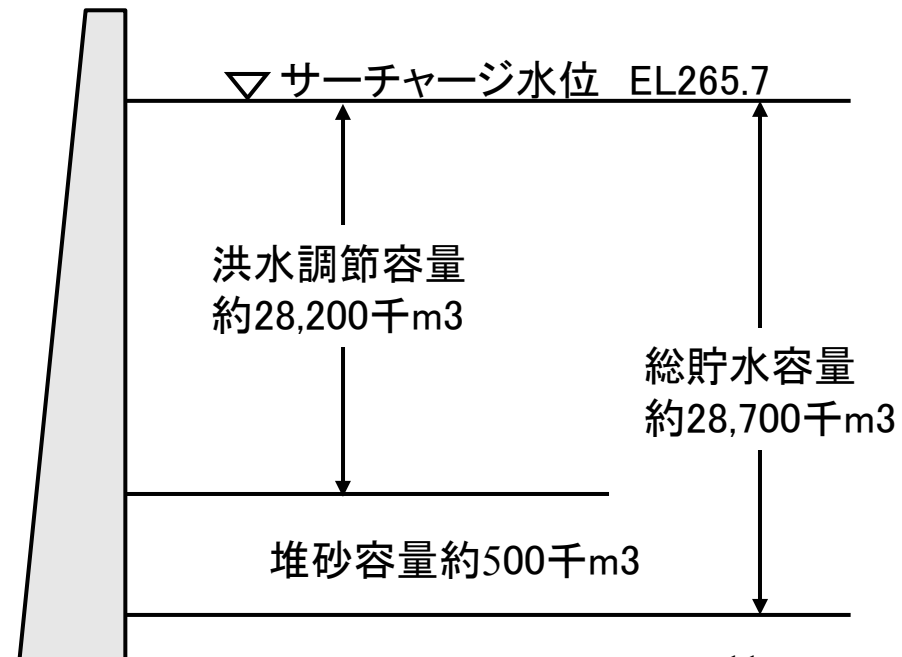
事業概要

- 場 所 : 福井県今立郡池田町小畑地先（九頭竜川水系足羽川支川部子川）
- 目 的 : 洪水調節
- ダム形式 : 重力式コンクリートダム
- ダ ム 高 : 約96m

足羽川ダム完成イメージ(平常時)

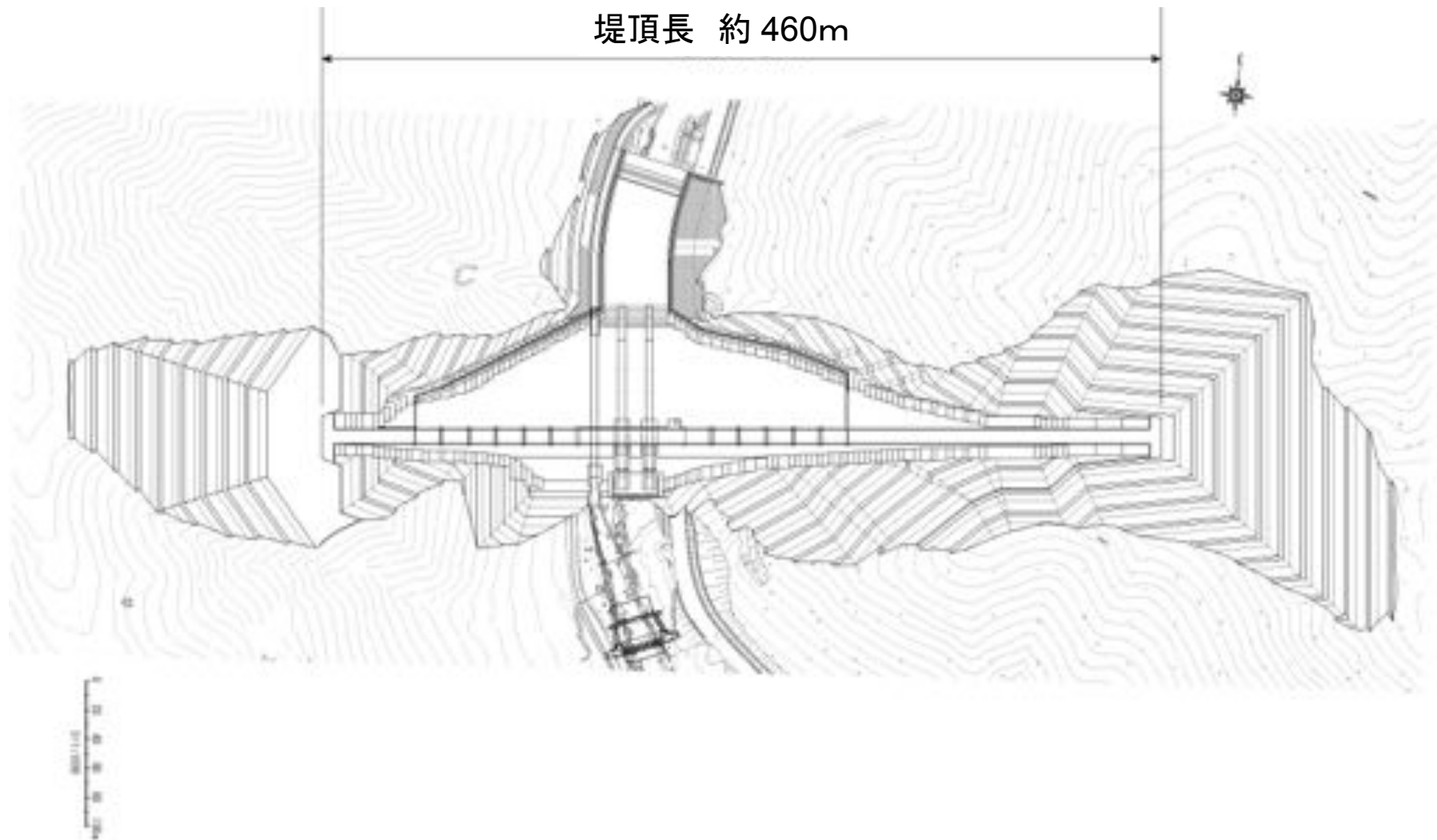


足羽川ダム容量配分図

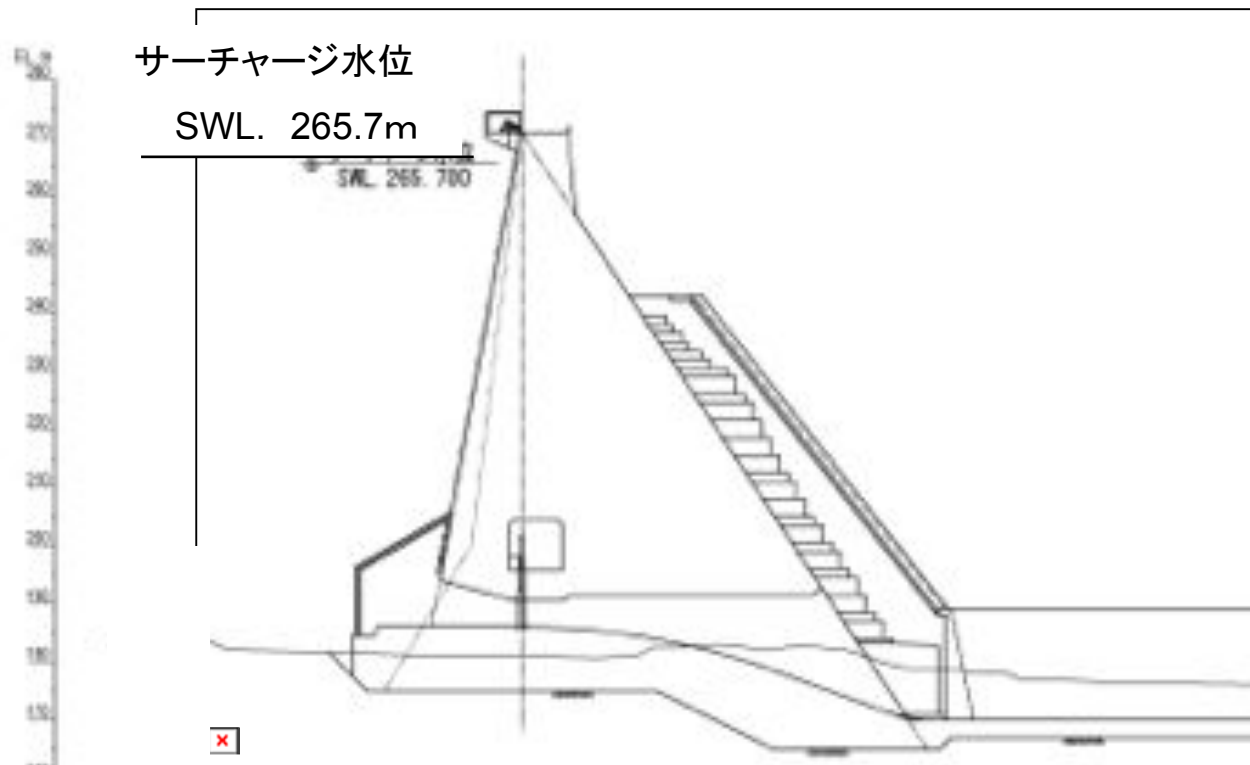


足羽川ダム平面図

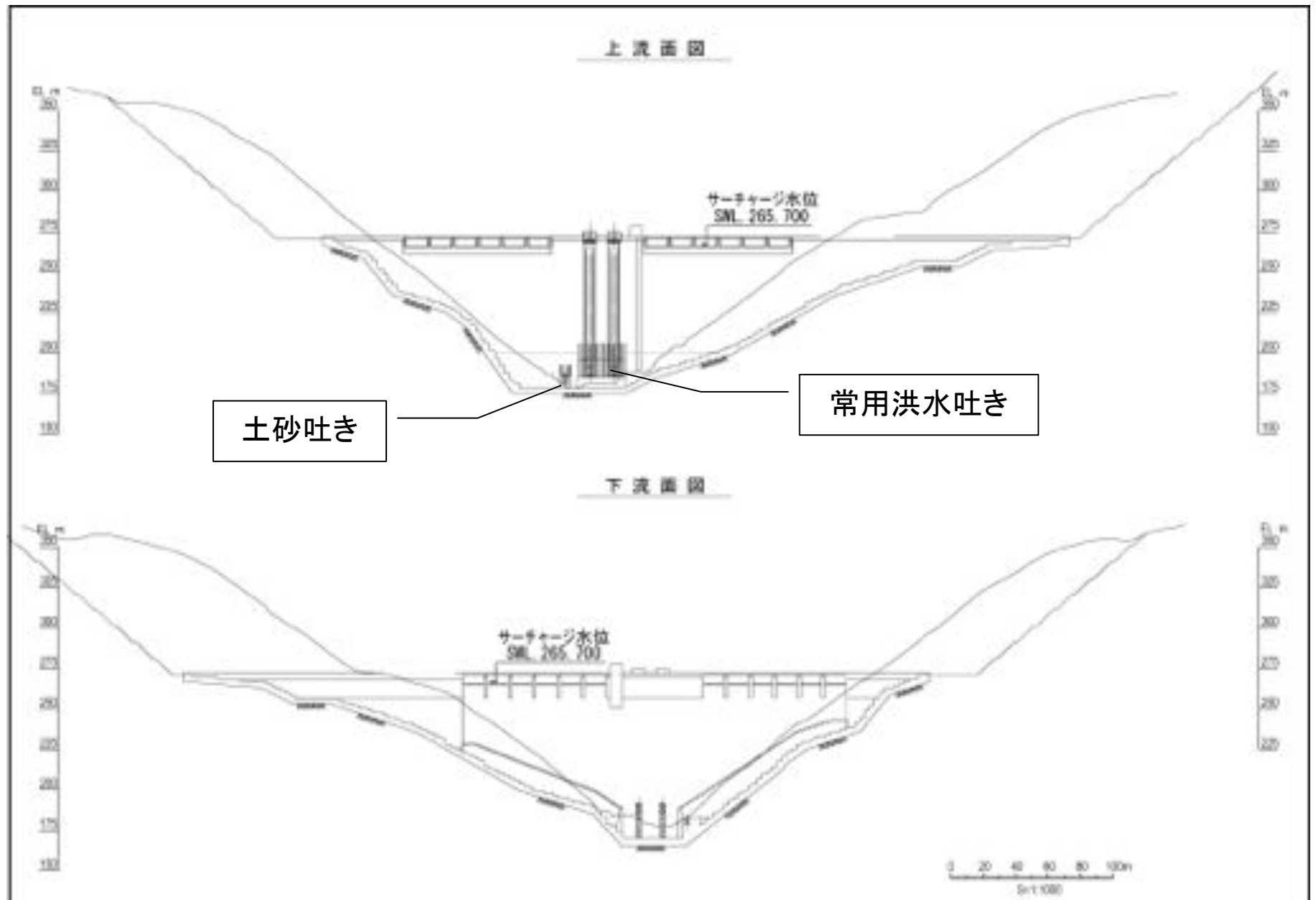
平面図



足羽川ダム断面図



足羽川ダム上下流面図



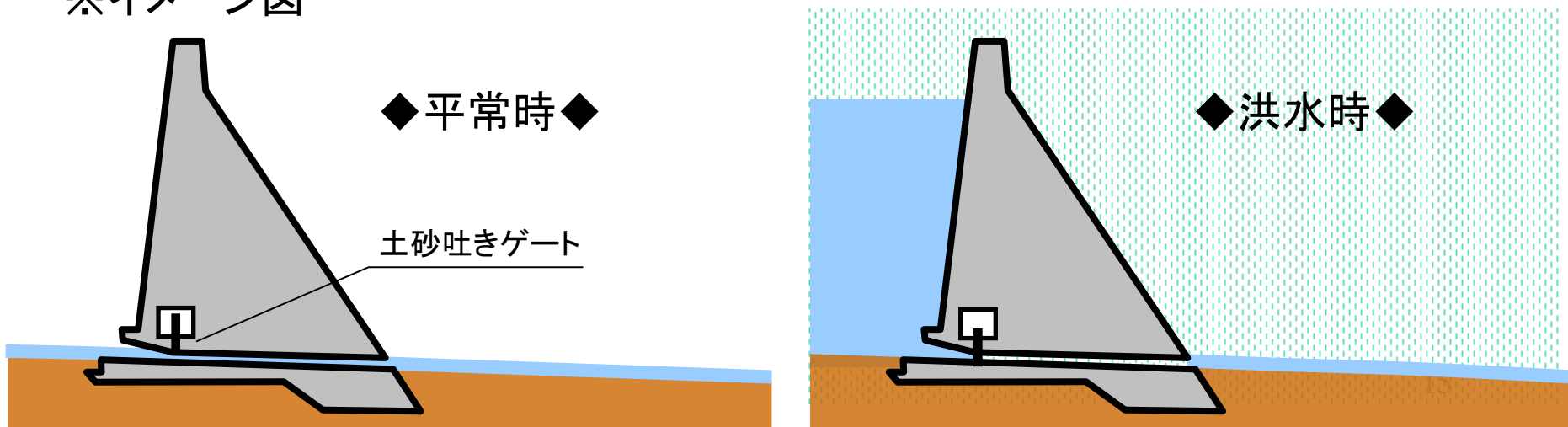
足羽川ダムの特徴

●足羽川ダムは「流水型ダム」

- ・ 平常時
部子川の水は河床とほぼ同じ高さにある土砂吐きを通り、そのまま下流に流れます。
- ・ 洪水時
ゲートを閉めて、ダムに水を貯めることにより、下流の洪水被害を軽減します。
- ・ 洪水終了時
常用洪水吐き及び土砂吐きから、ダムに貯まった水を流します。

なお、放流設備の詳細(位置・大きさ)及び放流方法については、今後、詳細に検討を行います。

※イメージ図



貯留型ダムと流水型ダム

貯留型ダム

上流より望む

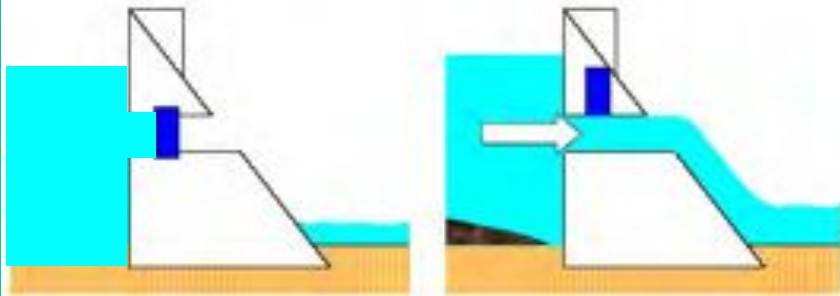
貯留型ダム
(利水目的をもつ)



下流より望む

(通常時)

(洪水時)



流水型ダム

上流上空より望む

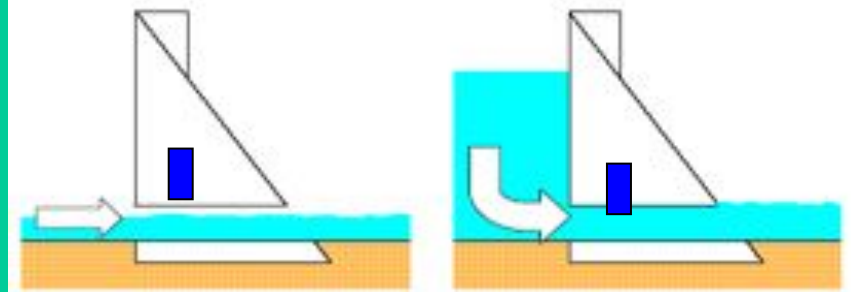
流水型ダム
(治水専用ダム)



下流より望む

(通常時)

(洪水時)



流水型ダム事例(益田川ダム【島根県】H17完成 H=48m)

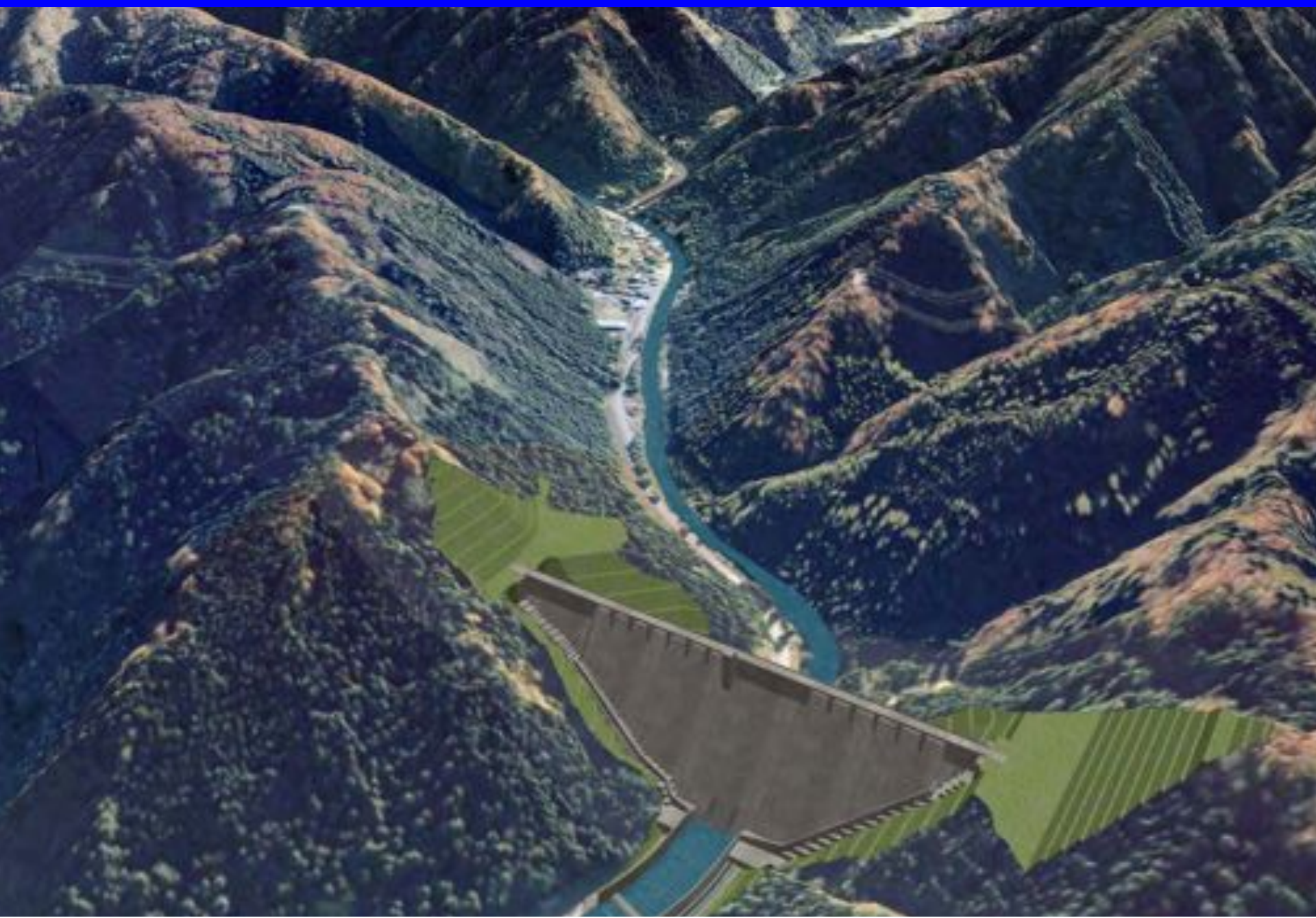
益田川ダム下流面



益田川ダム上流面



足羽川ダム完成予想図



九頭竜川水系足羽川ダム事業費等監理委員会規約

(名称)

第1条

本会は、「九頭竜川水系足羽川ダム事業費等監理委員会」（以下「委員会」という）と称する。

(設置)

第2条

委員会は、近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所長（以下「事務所長」という）が設置する。

(目的)

第3条

委員会は、足羽川ダム建設事業について、一層の事業費・工程監理の充実に図るため、事業の進捗に即してコスト縮減・工期短縮の見地から意見を述べるとともに、縮減策の効果や事業の実施状況等について確認することを目的とする。

(委員会)

第4条

- 1) 委員会の委員は、別紙－1のとおりとし、足羽川ダム工事事務所長が委嘱する。
- 2) 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3) 委員会には委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 4) 委員長は会務を掌理する。
- 5) 委員長は、委員会を招集し、開催する。
- 6) 委員会は、委員総数の2／3以上の出席をもって成立するものとする。

(委員会の公開)

第5条

委員会は非公開とするが、その結果については公表する。

(事務局)

第6条

委員会の事務局は、近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所に置く。

(開催時期)

第 7 条

委員会の開催は原則年 1 回（年度当初）開催とするが、必要に応じて随時開催する。

(雑則)

第 8 条

- 1) 事務所長は、委員会と協議の上、必要に応じ臨時委員を加えることができる。
- 2) 事務所長は、委員会と協議の上、必要に応じワーキンググループを設置することができる。
- 3) この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会において定める。

附則

(施行期日)

この規約は、平成 20 年 8 月 27 日から施行する。

別紙－ 1

九頭竜川水系足羽川ダム事業費等監理委員会 委員名簿

氏 名	所 属
安部 友則	土木研究所 水工研究グループ グループ長
荒井 克彦	福井大学大学院 工学研究科 教授
角 哲也	京都大学大学院 工学研究科 准教授
薬袋 奈美子	福井大学工学部 建築建設工学科 講師

* 5 0 音順